

平成30年度第5回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成30年度第5回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成31年2月21日（木）午後1時30分～午後2時54分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議会委員 柴山 裕子会長／山中 長壽／手塚 正子／堀内 直美／
須田 由美子／中山 洋美／金子 朋子／小澤 志保子
事務局 井出 良司教育部長／坂本 あけみ館長・市川 浩史・
小野 まどか(総務担当)／鈴木 規(すたま森の図書館)・
大平 真衣(たかね図書館)
- (5) 議題： (1) その他
報告： (1) 平成31年度主要事業（案）について
(2) 各館からの報告について
(3) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 議事録署名 須田由美子委員・中山洋美委員

議題： (1) その他
*その他審議案件無し

報告： (1) 平成31年度主要事業（案）について
*事務局より資料に基づき説明

事務局：前年比較の主な内訳は、OS サポート終了に伴う公共図書館 PC の入れ替え及び Windows10 対応バージョンアップに伴う図書館システム改修、いずみフレンドパーク内遊具の老朽化に伴う撤去及び設置、金田一春彦記念図書館地下オイルタンクの地上式への入れ替え工事、利用者用ソファの入れ替え、金田一春彦ことばの学校第20回記念誌作成事業です。図書資料費は引き続きシーリングで書籍・雑誌ともに削減されています。なお、ただいま平成31年度の予算要求資料により説明いたしましたが、実際には3月議会の承認をもって決定する内容であることをご承知おき下さい。

会長：報告されました主要事業や事業費に関して質問等ありますか。
収入の中に、深澤快策文庫の寄付分は含まれていますか。

事務局：含まれています。

会 長：図書館相互利用促進事業について、もう少し詳しく教えてください。

事務局：八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン事業の位置付けで、富士見町及び原村からの相互貸借にかかる郵送料を負担するものですが、北杜市民は従来から富士見町での利用者カードの登録者が多く、他の用事と併せ直接図書館に向向いて借りる傾向が窺えるため、事業として実際の利用は殆どありません。

会 長：図書資料費が削減されながらも 1,000 万円を下回らなかったのは良かったのですが、今後も引き続き削減されると心配です。

(2) 各館からの報告について

*事務局より中央館含め9館の事業説明

委 員：補足ですが、本日、小淵沢町の東・西保育園で図書館遠足を実施する予定でした。しかし韮崎市で発生した強盗事件の犯人が今も逃走中のため、急遽、園内遠足に変更されました。

事務局：昨日はセキュリティ対策の観点から、中央図書館にも連絡が来ましたので、すぐに8図書館と情報を共有しました。

委 員：ライブラリーはくしゅうで行った大人対象の紙芝居について、演題は何でしたか。参加者の反応はどうでしたか。

事務局：事業報告によると『いちにのさっちゃん』『待ちぼうけ』『金色夜叉』、観客参加型の紙芝居として『甲州弁のシンデレラ』などを行い、会場は始終笑いに包まれていた、とても良い会だったとのこと。

会 長：明野で山口進さんをお招きして、ファンクラブで開催した『ほくとの里のホントの自然』という講演会、参加者は30人くらいかなと見込んでいましたが、当日は60人来ました。北杜の自然に対する関心の高さ、主催者側として嬉しく感じました。

(3) その他

事務局：平成30年度第4回北杜市市議会定例会から一般質問の中で、「平成30年10月13日にNHKで放送された『山梨県は人口密度で日本一の図書館数を持ち、読書を盛んにすることが健康寿命に繋がっているのではないか』という内容で、今後ますます高齢化社会が進む中では脳の活性化が重要であり、そのために図書館が手伝えることとして司書やボランティアの協力で公民館等での読み聞かせをぜひ企画してほしい」というご提案をいただきましたが、協議会の皆さんご意見はいかがでしょうか。

会 長：大人のための朗読会「やまびこ」活動の中で、公民館や老人会の方に出張して読み聞かせをしますという内容を謳っているのですが、実は1件も依頼が

なく、なかなか難しいと思っています。ただ、定例の活動の中でも今までお見えにならなかった方達がいらっしやる。「まなびの杜パスポート事業」についても、お持ちになる方が増えているのではと思うのですが。

事務局：今は、毎回 5～6 人はハンコを押すような形で、2 月に入って新しくパスポートを作りたいという方には、切り替えの時期なのでという話をすると「じゃあ、来年度あらためて作ります」と言っていて、という状況です。

会長：最初の数か月はほとんど反響が無かったのが、だんだん増えてきて、という現状なわけですね。ボランティアサイドが「やりますよ」といっても、しばらくは需要が少ない、PR が不足しています。情報交換会でも話が出ましたが、ボランティアが活動して図書館が協力してという流れに加えて、実際に誰が、というのが明確になると PR にも力が入るのではないのでしょうか。

事務局：一部の図書館ではデイサービスセンターなど施設からの要望に対して、ボランティアに協力をお願いして交代で既に訪問しています。公民館向けの活動としては、個人的に所属しているボランティア宛てに公民館から朗読の依頼があつて出掛けたことがあります。図書館宛てに今のところ派遣依頼は届いていませんが、何か出来る事があればという態勢です。会長がおっしゃったように「やまびこ」のチラシの中で、出張のお話し会を公民館などご希望がありましたら出掛けていきますよという話も出ております。職員が直接出向くのは業務的にも厳しいものがありますが、読み聞かせ用の本の選定やチラシの作成など、お手伝いのご要望などあれば、ご協力は積極的に行いたいと考えております。

会長：選書についてですが、本が好きな人は 20 分でも 30 分でも聞いていただけますが、一般の人は 10 分くらいで読み切れるものでないと難しいです。大人向け紙芝居の話が出ましたが、笑えるものなど、聞き始めてすぐに興味を引ける要素を満たせる題材選びが重要ですし、図書館が協力しますというだけでなく、研修会でボランティアサイドが学ぶ機会も必要かなと思います。

委員：住民と図書館を繋ぐ役割は重要です。高齢者団体の方と直接お話する機会がありました。本の読み聞かせは難しいということでお話し会、子どもにするような短いお話でしたけれども、とても喜んでいただきました。この辺りに図書館が出来てやっとならば 30 年。年配の方はそもそも図書館の概念自体が無いので、利用するイメージが湧かないそうです。まずはお話を聞いて、気に入っていただいて、ようやく次の段階に進めます。

会長：「やまびこ」の活動で、どこの施設か具体的にはわかりませんが、高齢者向け入居施設の入所者や職員と思われる方々が、定期的に朗読会へ来ているのを拝見しています。

委員：アピールについては、主事さんなど、公民館事業を取りまとめられる立場の

人に直接話したほうが良いのではないのでしょうか。

会 長：ちょうど、4月から地元の役員なので、公民館カフェを行いたいです。童謡の会など人が多く集まる実績がある場の中で、本を読む機会を少しでも混ぜていけたらと思います。

委 員：市の委嘱で、はつらつシルバー、健康推進委員を務めた時期がありました。当時はイベント企画が自由に出来たので、甲州弁の劇を企画したら好評でした。ところが今は登録された講師の中から選択しなければいけない決まりで、分野も健康体操などに偏っていると感じます。本を読んだり聞いたり、頭の体操も立派な健康づくりだと思います。

会 長：ミスマッチの話ですが、行政組織はどうしても横の繋がりを作りにくいので連携のアイデアをどんどん出してほしいです。それと、甲州弁の評判が良かったという話ですが、北杜市は移住の方も多く、甲州弁で逆に白けたこともあるので難しいです。子どもにも甲州弁が通じなくなっています。

事務局：登録講師の枠の中に朗読ボランティアの登録ができないか、健康増進課とも相談し、連携したいと思います。

部 長：一言いいですか。議会で議員の方から関連質問があつて、健康長寿という部分で読書が効果あるんだと、そういう意味で山梨県は非常に高いランクにいと、それは何でかというところ、図書館の数が多いからだと、AIがはじき出した基本的なベースがあるんですけども、そういうことを元に図書館として、これから更に高齢化社会に向けて、図書館が持ち合わせている機能を、図書館に足を運びたくてもなかなか来られない、そういう中でもっと外へ出していけないかと。先ほど、いろいろ、委員の皆さんから事例のお話をしてくださったような、外へ出てそういったものを提供していただくようなことは出来ないかと、関連質問、再質問で出まして、ボランティアの皆さんにも呼びかけながら是非そういったものを外に出していただきたいといった経過があります。その中で市長の方からも、図書館に来ていただくのが図書館としての第一の役割なんだけれども、図書館が持ち合わせている機能、ボランティアさんの力も借りながら、ぜひそれを外に向けてやっていくという事も考えていると。今回、市の方で、3月の議会にプレ計画という、総合戦略という計画があるんですけども、この中で、1年前倒しでプレ計画を示して「お宝いっぱい健幸北杜」を更に推進したいと、『健幸北杜』には教育も、更には健康もありますので、その中で何かしら図書館から提案できないかというヒアリングを館長が受けた経過がありまして、その中で市長からも図書館が持ち合わせる機能をもっと有効に使うって取り組めるようなことを企画してほしい、ボランティアさんにも協力してもらいたいようなことを考えてはどうだという話も確かあったように記憶しているので、ぜひ委員の皆さんも前向きな

ご意見をいただけたかと思しますので、明日、ボランティア研修というのも予定しております。そこで協力できるだけの人がしっかり確保できるのかという部分で、そこを確認できれば図書館として積極的に、たとえば広報なんかを使って、こういった活動できますよと、庁内の横の連絡、先ほど話のあった、はつらつシルバーの件などを入れていただくということも、非常に良い案だということをお伺いしたところですし、色々な取り組みをしていただければと。8つの図書館を盛り上げていくというのも、これもしっかりとやらなければいけない事だと思うんですけども、やはり図書館の機能をどうやって外に出していくか、図書館に関心を持ってもらうかというところが重要だと思っておりますので、非常にありがたいご意見をいただけたかと思うので、図書館の方でも頑張ってもらいたいなと思っております。

会 長：図書館の中だけでなく、外へ向かうにはそれに見合った職員の数、人的な保障が必要ですが、現状では大変難しく、図書館によっては人が少なくて何かやりたくても出来ないといった所も出てくるので、人材確保のための予算措置も市には頑張ってもらいたいです。

部 長：頑張らなければいけないと思います。それから、なかなか市の財政も厳しい部分があって、色々な部分で、ご協力をいただきながら、そこにはボランティアさんといった、一般市民の方にも声をかけながら、理解をいただきながら協力していただいている実態もあるので、まず私なり、館長なり、頑張らなければいけない部分と、それからやはりお願いをしなければいけない部分もあるかと思っておりますので、その辺りをよろしく、申し訳ありませんがお願いするばかりになりますけれども、よろしく願いいたします。

会 長：ボランティアとして協力することはやぶさかでないんですけども、事業数ばかり増えて問い合わせ対応とか、図書館の負担が重くなる一方だとそれも問題かと思っておりますので、兼ね合いを考えていただければと思います。ほかに何か、任期を総括してのご意見など、ございませんでしょうか。

委 員：子供の活字離れとか、高齢者も本を読むのがつらいとか、それでも高齢化社会で図書館の役割が大きいというのを、今回をはじめ協議会の中で勉強させていただきました。一番印象的だったのは、人件費とか、色々な事情があって休館せざるを得ないという事案を聞いた時はショックでした。とにかく図書館は開いてほしいという思いがあるんですけども、皆さんそういう厳しい状況の中で一生懸命、図書館職員も取り組んでくださっているんだと、皆さんがいつでも図書館に行ける状況が好ましいと感じているところです。

委 員：厳しい財政状況の中で8つの図書館を存続させるのは難しいのではという議論もある中で今まで乗り越えてきたわけですが、最近関わりのある北杜高校の生徒さんは全国読書コンクールで入賞、数年前にはビブリオバトルで優勝

するほどの実績があります。市内に8つの図書館があり、本だけでなく行事がとても身近にある環境が良い影響を与えているのではと感じています。審議会で議論された内容がすべて実現するわけでは無いにせよ、少なくとも良い方向には向けてきたという実感はありますので、今後とも審議会がそのような場であればと願っています。

委員：図書館職員は本を貸し出すだけでなく、ある時はヘルパーであり、またある時は保育士、セラピスト、俳優と、本当に頭が下がりますし、仕事の幅が広く深い分だけ負担も大きいと感じます。私たちも出来ることしか出来ないですけれども、少しでも図書館に貢献できればと思います。

委員：子供の頃は、県を跨いで富士見町まで行かなければ図書館が無かったことを思うと、今は自宅の近くにも職場の近くにも図書館があるという、本当に夢のような環境で、大事にしなければと思います。委員になってから市内の図書館巡りをして感じたのは、やはり8館それぞれにテーマを持って書籍を集めていて、それぞれの特色と魅力があるので、せっかく近くにある図書館を地域資源として活かしていきたいです。

会長：8図書館を4図書館にという議論がきっかけで協議会委員になり、任期中に掲示物取扱基準についての議論も2回経験しました。1日に数便しか市民バスが走らないなど公共交通が不足している北杜市で、施設数が削減されるのは市民にとって死活問題です。最近また施設の統廃合という話が出ていますが、まずは公共交通の整備計画とセットで語られるべきだと思います。

部長：図書館は今でも詳しいとは言えませんが、若干関わりのあるところがありまして、長坂の図書館、ながさかコミュニティステーション、私が長坂のまちづくりを担当した時に、経済産業省に半年くらい、週に一度くらい通って、補助金を貰ってきた施設なんですけれども。まちの方々がとにかく寄り合える場所が欲しいと、その核になるのが図書館だと当時の町長から言われて、図書館はみんなが気軽に来れて、本を読んだりみんなで語り合ったり、そういう場所にしてほしいんだということで、コンサルがああいう設計をしたんですけれども、町側の人間として色々監修させてもらった施設です。色々制約があって、なかなか一風変わった図書館なんですけれども、図書館というかそもそも図書館は作っちゃいけないと、この縦割り行政の中ですね、経済産業省は図書館を作る組織ではないと、図書「コーナー」だったらいいと、図書館を作るんだったら図書館法、文科省から補助金を貰いなさいと言われて門前払いを食らいそうになったんですけれども、そういう中で「いや、子どもコーナーで作ります」と言ってああいうものを作ったんですけれども、いま子どもたちが良く来てくれますし、使い勝手の悪さもあったり、また、ああいった立地条件の中で、最近あそこの施設にも朝、日曜日なんかに行くと1

0時、前は9時だったけれども10時なんですね、知らない間に。子どもたちが、図書館は10時前で閉まってるんだけど、9時過ぎには来てあそこで、場所取ろうって言って、勉強できる場所があるかなと言ってるのを見てるんですけど、そうやって来てくれている姿を見ていると非常に嬉しく思っ
て見させていただいているんですけど、まあそんなことで、合併以前から少し
図書館には関わってきたんですけど、図書館はあまりよく理解できなかった。
まだまだ色々教わりながらというところもありますけども、本当に私もこの
2年間、この会議に関わらせていただいたんですけども、図書館の重要性
をひしひしと感じて、また、うちの職員が非常に苦勞しているというのも見
させてもらっているのも、まあ何とかなればというところなんですけども、
市には市の内情もあったりしながら、なかなか思ったように改善が出来ない
という事です。しっかり心に留めていきたいと思っておりますので、よろしくお願
いしたいと思います。

事務局：委員の皆さんの任期が今年3月までとなっており、今回が最終の協議会とい
うことで、これまで貴重なご意見、ご助言をいただきありがとうございました。
留任される方も、また今年度で退任される方も、それぞれの立場で引き
続きご協力をお願いいたします。

以上